

令和10年秋完成を目指し事実上のGOサイン！
県民、市民にとって降って湧いたようなアリーナ構想。経済界が中心となって進めるアリーナ整備は出だしから難航。県と福井市に多額の行政支援を要請しながら計画の本身は実に不透明極まりない。

アリーナ整備〓多難の船出〓

多額の公費負担に県民市民の理解は得られたのか？

多額の公費負担を強いられても杉本知事は「民設民営の全国的なモデルケースになる」と経済界を持ちあげ、駐車場問題や渋滞対策、地元住民理解の解決も福井市と経済界に丸投げ。福井市会は「市民が置き去りの計画と言わざるを得ない」と強く批判するが、『建設ありき』のアリーナ整備は県民市民の理解など度外視して来年の1月頃に国の交付金申請、令和10年秋頃の完成を目指す。

不安と疑念満載の事業計画案

アリーナ整備は当初75億円をかけて経済界が整備する予定だったらしいが、令和6年2月突然、経済界からアリーナ構想案が県と市に提出され、資材などの高騰で整備費が1

05億円まで膨れ上がったため国庫補助制度を活用した支援を県、市に要請してきた。さらに今年6月、整備費が150億円程度に引き上げられる見通しになったからと、

60億円の行政支援を求めている。県や市に公費負担を要望してから1年半の間に整備費の上振れが最大1・5倍に。さらにアリーナ完成後は県民の利用枠として県と市が買い取り、契約年数の30年間支援し続けるというアリーナ整備の基本計画案に「本当にでき

るのか」「運営は大丈夫なのか」と不安や疑念が相次ぐ。今年8月、福井商工会議所は「福井アリーナ整備・運営に関する事業計画案」を公表当初示していた斬新なデザインを変更し、メインとサブのアリーナを整備。メインアリーナの客席はプロスポーツで

運営会社 (株)Fプライマル	
収 入(税別)	
メイン・サブアリーナ等使用料	2億4600万円
VIPフロア使用料	1億1800万円
県民利用料	1億6400万円
市利用料	7000万円
広告収入	5200万円
売店・自動機等収入	7400万円
合 計	7億2400万円
支 出(税別)	
リース料	2億9000万円
運営・維持管理費	2億6500万円
広報費	1500万円
VIP原価	8300万円
売店等原価	5500万円
合 計	7億800万円
税引前利益	1600万円

整備・所有会社 (株)福井アリーナ	
収 入(税別)	
リース料	2億9000万円
寄付・協賛	2億円
ふるさと融資保証料支援	4000万円
合 計	5億3000万円
支 出(税別)	
設備メンテナンス費	1000万円
保険料	1500万円
固定資産税	7000万円
修繕・積立金	5000万円
支払利息	5200万円
ふるさと融資保証料	4000万円
諸経費	1100万円
合 計	2億4800万円
減価償却前利益	2億8200万円

約5000席、コンサートで約4500席とする。事業費は最大160億円。経済界が寄付や出資、企業版ふるさと納税で25億、銀行融資30億のほか、地方債を原資とする「ふるさと融資制度」で35億と想定していたが、交付金の枠組みで10億増額、合わせて最大100億円を調達。残りの60億円を国30億、県と市各15億円の交付金で賄う。利用枠の想定は、メンテナンスを含めて年間計296日。プロバスケットボールBリーグをメインとするプロスポーツが63日。コンサートは24日12公演で、基本計画案の110日80公演から大幅に減少。Eが準備日を含めて60日と大幅に増えた。県民利用を115日、市民利用を19日の134日、メンテナンスを15日とした。この結果、年間来場者の見込みは39万人となり、58万人から19万人減となった。

最新のデータを踏まえ年間の経済波及効果を精査し、当初予想を5億円上回る61億円と見積もった。この枠組みで年間約2億8000万円の利益を生み出し、開業後約30年かけて、民間調達の90億円のうち、寄附などの25億円を除いて銀行などからの借り入れ分65億円を返済するとし、理解が得られれば年明けにも実施設計に入り、令和9年1月頃に着工、10年秋頃の完成を目指すという。10月、福井商工会議所はアリーナの整備・所有を目的とする子会社「株式会社福井アリーナ」を設立、資本金は1000万円。運営はプロバスケットボールチーム「福井ブローウィンズ」のオーナー企業、通信インフラサービスのオールコネク트가今年3月に資本金1000万円で設立した子会社「Fプライマル」に委託しリース料を徴収する。建設費の上振れなどで2度